

「できるか、できないか やって見たらわかる」

太田めぐみさん（遊びのまなびや とびつきり！代表）

運動大好き少女から指導者の道へ



民謡「安来節」で名高い島根県安来市で生まれ育った太田めぐみさん。春には雪解けの水が流れ、夏には満天の星空、秋には豊かな実り、冬にはハクチョウが飛来する。そんな豊かな自然の中で野山を駆け回って育った太田さんは自他ともに認める運動大好き少女でした。

高校卒業後、地元を離れ大阪の体育専門学校で幼児水泳や幼児体育について学び、卒業後はスポーツ施設などで子どもたちの運動指導に携わる日々を過ごしました。

幼児期に身体をしっかり動かして遊ぶ経験は、身体機能はもちろん知能や心の発達の上でも大事であり、さらには生涯の健康維持にも役立つということを学んできた太田さんには運動遊びのニーズが減少していることに残念な気持ちを持つようになっていきます。

「子どもたちに自然の中で思いっきり遊んだり学んだりできる体験をさせてあげたい。」

背中を押してくれた母の一言

子どもの教育や野外活動に携わる団体は数多く存在しますが、太田さんは島根の実家が所有する山林や田畑を活動の場にできるという強みがあり、“都会生まれ、マンション育ち”の子どもたちに自身が昔走り回った野山を駆け回ってもらいたい。そんな想いを強くお持ちでした。そう思ったものの、「私にできるかな？」となかなか一歩踏み出せずにいたある日、実家のお母さんにこう言われたそうです。

「できるか、できないかは、やって見たらわかる。」

時を同じくして「何か手伝おうか?」と言ってくれる友人が現れ、背中を押されるように 2018 年 7 月、知人の勧めで「女性チャレンジ応援拠点（以下、拠点）」を訪問。緊張しながらも「冷静に熱く」想いを語ってくれました。



想いを伝えることで、活動が前進

太田さんが初めて拠点に相談に来られた時の資料は手書きでした。想いは伝わるものの、対外的に発信するうえでの見栄えは課題でした。そこで、文章作成ソフトを使ったパソコンでの資料作りを勧めました。パソコンが大の苦手の太田さんでしたが、知人の助けもありミッションをクリア。インパクトのある資料が完成しました。

太田さんは、自分の想いを「まずは話してみる」ということを心掛けているそうです。そうすることで、「いいんじゃない」や「手伝うよ」など、活動を手伝ってくれる方に出会うことができますといいます。時には共感を得られなくて否定されることもありますが、そこで落ち込むのではなく、そういう考え方があることを受け止めるようにしているそうです。自分自身の苦手なことでも、怖がらず話すことで、いろいろな方と想いを共有し、協力を得ながら活動を前進させておられます。

子どもたちの変化が見えるのが嬉しい！

「遊びのまなびや とびつきり！」では、豊かな自然の中で様々な生き物の営みや生命の連鎖、野山や田畑の豊かな恵みなど、都会では出会えないとびつきりの経験ができる場にしたいと考えていました。その熱い想いがいよいよ実を結びます。地域の子育て支援団体からの紹介もあって、2019 年夏いよいよ大阪市内の学童保育施設に通う小学一年生の子どもたちと先生 15 人が太田さんの故郷を訪れる機会がやってきました。



野山で思い切り遊ぶ都会っ子たちは長旅の疲れなどみじんも感じさせません。竹林から竹を切り出して工作したり、川遊びを楽しんだり、野山の生き物の生態を自分の目で見て、手で触って体中で自然を楽しんでいました。日ごろ野菜嫌いで少食の子が多いと先生方から聞いていましたが、その時は「おかわり！おかわり！」の連発で、相当余裕をもって用意していた食材も底をついてしまうほど。親元を離れ、スマホやゲームのない環境で仲間と共に自然とふれあい、ぐっすり眠る。何事にも積極的に挑戦し、やり遂げる姿を見せてくれた一泊二日の旅となりました。

今できることをひとつずつ

今は新型コロナウイルス感染症の影響で子どもたちを現地に連れていく活動はストップしていますが、太田さんはいくじけていません。8月には、マッチやライターを使わずに火を起こす体験会や島根から届いた大きな赤シソ青シソでジュースやシソ味噌を作ったり、染め物をしたりする体験会などを開催しました。子どもたちに自然を感じることができる楽しいイベントを企画するとともに、スタッフ間で活動を共有できる機会も意識的に作っています。太田さんの願いは子どもたちの心身の成長と学び、豊かな人間性と生きる力を育む体験学習の機会をつくること。そのために、今できることに精一杯取り組んでおられます。

<https://asobinomanabiya-tobikkiri.jimdosite.com/>